



コツコツ便り

2024
vol.9

重工記念長崎病院OLS

X線検査で背骨の骨折をチェック！

X線検査とはいわゆるレントゲン検査のことです。体中のいろいろな部位を撮影できますが、ここでは骨粗鬆症に重要な背骨のX線検査のお話をします。

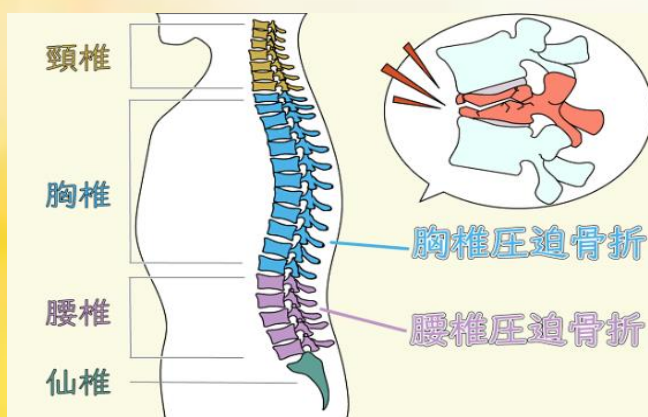
背骨のうち上の12個を胸椎、下の5個を腰椎と呼び、それらを正面と側面から撮ります。とくに側面からの写真では、背骨の全体の形や、椎間板が減ってないか、骨の変形はないか、そして圧迫骨折を起こしていないか、などがわかります。

骨が弱くなると、背骨が徐々につぶれることがあります。

圧迫骨折は椎体（胸椎や腰椎の積み重なっている円筒形の部分）がつぶれる骨折で、椎体骨折ともいいます。実はこの圧迫骨折には、重要な2つの特徴があります。

1つめは、骨粗鬆症で圧迫骨折を起こしても、痛みを感じないことが多いこと。2つめは、圧迫骨折を起こすと次の骨折を起こす確率が上がることです。圧迫骨折が1個あると次の骨折を起こす確率が2.6倍、2個以上あると7.3倍に増えるという研究結果があるほどです。最近、背骨が丸くなってきた、若い時に比べて2cm以上身長が縮んだという場合は、知らない間に圧迫骨折を起こしているかもしれません。一度、整形外科で背骨のX線検査を受けてみましょう。

そして圧迫骨折が見つかったら、次の圧迫骨折を予防するためにきちんと治療を受けましょう。骨粗鬆症の薬は次の骨折を起こす確率を半分に減らす効果があることが、大規模臨床試験でわかっています。



2024.11.5 発行